

■5月24日

ボーイング787関連:全日空・日航、国交省に改修終了報告

全日空と日航は23日、ボーイング787型機の運航再開に向け、バッテリー改修作業の終了や独自の安全対策についての進捗状況などを国交省に報告した。改修が必要な787型機は全日空が17機、日航が7機保有しており、23日午前までに作業を終えた。

国交省によると、両社は改修が終了したことを報告した。このほか、独自の安全対策として、地上でバッテリーの電圧を監視する仕組みを導入したり787型機専用のホームページを作ったりしており、これらの取り組み状況も説明した。

両社のボーイング787専用サイトは以下の通り

- 全日空 <http://www.ana.co.jp/share/boeing787info/> (-> <http://www.ana.co.jp/share/boeing787info/>)
- 日航 <http://www.jal.com/ja/flight/boeing787/> (-> <http://www.jal.com/ja/flight/boeing787/>)

(時事ドットコム)5/23

http://www.jiji.com/jc/c?g=soc_30&k=2013052300447 (-> http://www.jiji.com/jc/c?g=soc_30&k=2013052300447)

ボーイング787対応:全日空、運航開始前倒し、5月26日から臨時便

全日空は23日、運休しているボーイング787型機で、5月26日から臨時便での運航を開始すると発表した。同型機は6月1日から定期便のダイヤに組み入れている。

日経によると、記者会見したANAの篠辺修社長は、787型機について「全17機の改修作業が既に完了しており、確認飛行や慣熟飛行などでバッテリーの異常は認められなかった」と述べた。また、定期便を再開する6月の利用動向については、787型機が飛ぶ路線の予約数が前年同月比8%増になっているという。

一方、日航は6月1日、国際定期便の羽田—シンガポール線から787型機の運航を再開する。「臨時便で787を再開する予定はない」(広報部)という。

(日経)5/23

http://mxt.nikkei.com/?4_12822_216115_3 (-> http://mxt.nikkei.com/?4_12822_216115_3)

http://www.nikkei.com/article/DGXNASDD230FK_T20C13A5TJ0000/ (->

http://www.nikkei.com/article/DGXNASDD230FK_T20C13A5TJ0000/)

(ANAプレスリリース)5/23

http://www.ana.co.jp/pr/13_0406/13-036.html (-> http://www.ana.co.jp/pr/13_0406/13-036.html)

新日本航空、佐渡—新潟線、運休を6月末まで延長

佐渡—新潟空路を運航する新日本航空は22日までに、今月末までの予定だった運休を6月末まで延長することを決めた。英国製の部品の修理に時間を要しているためで、4カ月間に及ぶ長期運休になる。

同空路は1機で運航。同社は年に1度の機体の耐空検査に合わせ、事前の自主整備として2月末から運休していた。この中で部品に不具合が見つかり、調達がうまくいかず、今月に入って英国のメーカーに修理に出し、運休期間を6月末まで延長を行った。

運休前の搭乗率は平均約4割で、目標とする5割に届いていない。

(新潟日報)5/23

<http://www.niigata-nippo.co.jp/news/national/20130523044410.html> (-> <http://www.niigata-nippo.co.jp/news/national/20130523044410.html>)

<http://www.niigata-nippo.co.jp/news/national/20130523044410.html>)

韓国航空各社、沖縄線へのチャーター便に前向き

韓国訪問中の高良倉吉副知事ら県のトップセールス団は22日、ソウル市内で格安航空会社(LCC)のエンジニアやテ

イーウエイ航空、大韓航空の各本社を訪問した。

琉球新報によると、各社沖縄路線への就航は前向きだという。

ティーウエイ航空幹部は、13年12月から14年3月までの那覇—ソウル線の季節限定便を運航させたい意向を示した。また、ジンエアー幹部は、現在的那覇—ソウル週5往復運航から、13年7月以降に条件付きで1日1往復運航も検討しているとの考えを示した。

さらに大韓航空幹部は高良副知事との会談で石垣—ソウル線のチャーター便運航にも興味を示した。

(琉球新報)5/23

<http://ryukyushimpo.jp/news/storyid-206992-storytopic-4.html> (-> <http://ryukyushimpo.jp/news/storyid-206992-storytopic-4.html>)

(沖縄タイムス)5/23

http://article.okinawatimes.co.jp/article/2013-05-23_49568 (-> http://article.okinawatimes.co.jp/article/2013-05-23_49568)

ホンダジェット、生産規模90機に引き上げ、従業員雇用拡大

(bloombergによると)

ホンダの航空機部門は、小型ビジネスジェット機「ホンダジェット」の生産規模を年90機に引き上げるため、従業員を最大50%増やす計画だ。米セスナやブラジルのエンブラエル (-> <http://www.bloomberg.co.jp/apps/quote?T=jp09/quote.wm&ticker=ERJ:US>)と競合する。

ホンダ・エアクラフトの藤野道格社長はスイスのジュネーブでインタビューに応じ、300—400人を数年かけて採用すると明らかにした。ホンダジェットの開発・生産では既に800人を雇用済み。1機当たり450万ドル(約4億6600万円)の同機は、来年後半には規制当局から最終承認を得られる見込みという。

(bloomberg)5/23

<http://www.bloomberg.co.jp/news/123-MN7F016KLVRV01.html> (-> <http://www.bloomberg.co.jp/news/123-MN7F016KLVRV01.html>)

ANAセールス、「国内線6社乗り比べ日本1周旅行を企画」

ANAセールスは22日、2日間で国内線6社7区間を乗り継ぐツアー「国内線6社乗り比べ日本一周旅行 2日間」の販売を開始した。航空専門雑誌「航空旅行」(イカロス出版)とのコラボ企画。

ツアーでは全日空と、同社と共同運航しているスターフライヤー、エア・ドゥ、アイベックスエアラインズ、オリエンタルエアブリッジ、ソラシドエアの便を利用。

2日間で「羽田→関西→新千歳→仙台→福岡→対馬→長崎→羽田」と乗り継ぐ。

価格は大人1人の場合で10万1800円から20万9800円、ウェブでの限定販売となる。

<http://www.j-cast.com/mono/2013/05/23175646.html> (-> <http://www.j-cast.com/mono/2013/05/23175646.html>)

(ANAプレスリリース)5/22

http://www.ana.co.jp/pr/13_0406/13-asx-005.html (-> http://www.ana.co.jp/pr/13_0406/13-asx-005.html)

国交省、航空会社を公的支援する際の指針案を提示

国交省は23日、航空会社を公的に支援する際の指針案を発表した。

国交省の有識者会議は、2010年に経営破たんした日本航空への公的支援をめぐる全日空や自民党議員から「競争が歪められた」などと批判が出たことを受け、今後、航空会社が破綻した場合の公的支援のあり方を議論行ってきた。

公表された指針案では、日本航空への公的支援が「競争環境への配慮が欠けていた」として、今後は再建計画を立てる際に競合他社などの意見を聞くこととした。

一方、焦点となっていた公的支援を受けた企業に対する路線開設や運賃値下げの制限は盛り込んでいない。

今回の指針案を受けて政府は、企業に対して公的支援を行う際の具体的なルール作りの検討を行う。

また、産経ニュースによると、今回の報告書について、23日に会見したANAホールディングスの伊東信一郎社長は「『健全な競争環境の確保への配慮が欠けていた点是否定できない』とあるが、まさにそうだったと思う」と肯定的に受け止めた一方で、「現下の競争環境はイコールフットイング(対等な競争条件)ではなく、引き続き修正を求めていく」と言う見解を述べた。

■国交省「公的支援に関する競争政策検討小委員会」報告書<http://www.mlit.go.jp/common/000998749.pdf> (-> <http://www.mlit.go.jp/common/000998749.pdf>)
(TBSニュース)5/23
http://news.tbs.co.jp/newseye/tbs_newseye5339289.html (-> http://news.tbs.co.jp/newseye/tbs_newseye5339289.html)
(産経ニュース)5/24
<http://www.sankeibiz.jp/business/news/130524/bsd1305240725002-n2.htm> (-> <http://www.sankeibiz.jp/business/news/130524/bsd1305240725002-n2.htm>)
(国交省プレスリリース)5/23
http://www.mlit.go.jp/report/press/kouku01_hh_000047.html (-> http://www.mlit.go.jp/report/press/kouku01_hh_000047.html)

全日空、伊東会長、LCC2社の現状「PEACH好調・エアアジア・ジャパン 想定下回る」

全日空取締役会長の伊東信一郎氏は23日の定例会見でグループのLCC2社の現状について聞かれ、「ピーチは本当に好調」とした上で、エアアジア・ジャパンについては「それほどでもないというべきか、想定を下回る実績」との認識を示した。トラベルビジョンが報じた。

エアアジア・ジャパンの苦戦について伊東氏は、認知度と、売るためのツールなどに課題があるとし、オンライン直販に注力してきたもののシステムに不便な点があったと指摘した。
まだ伸びる余地があるとしたうえで、今後の機材数の増加などに合わせたネットワークの拡充などにより業績の回復をはかっていきたいとした。

(トラベルビジョン)5/23
<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=57671> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=57671>)

復興航空、石垣—台北線に就航、石垣島空港—初の外国定期チャーター便

3月に開港した石垣島空港に23日、初の外国定期チャーター便としてトランスアジア航空(復興航空)の「台北—石垣線」が就航した。現在はチャーター便扱いだが、同航空は定期便として申請中で、認可が下りれば正式な定期便となる。
同路線は毎週木、日曜に往復2便で運航、初便は台湾から96人が来島した。南ぬ島空港は3月7日の開港以来、韓国や台湾からチャーター便が乗り入れていたが、定期便就航は初めて。

(沖縄タイムス)5/23
http://article.okinawatimes.co.jp/article/2013-05-23_49596 (-> http://article.okinawatimes.co.jp/article/2013-05-23_49596)

新関西空港(株)、ITF最優秀賞受賞、資金調達手法が評価

(時事ドットコムによると)
ドイツ東部ライブチヒで開かれている国際交通フォーラム(ITF)加盟国による国際交通相会議は23日、資金調達に革新的な手法を導入したとして、新関西国際空港会社に今年のITF最優秀賞を授与した。
会議は、同社が格安航空会社(LCC)専用のターミナルを開設したほか、発着枠に余裕がある時間帯の着陸料を割り引くことで、新たなLCC市場を開拓したと評価した。(

(時事ドットコム)5/24
http://www.jiji.com/jc/c?g=soc_30&k=2013052400026 (-> http://www.jiji.com/jc/c?g=soc_30&k=2013052400026)

北海道、LCC需要拡大にむけ取り組み強化、「公募型プロポーザル」開始

北海道は17日、格安航空会社LCCの力を取り込むべく、このほど、LCC航空需要拡大等に関する公募型プロポーザルを開始した。

具体的には新千歳空港におけるLCC利用者の一層の拡大に向けた取り組みのほか、新千歳空港以外の道内空港へのLCC就航に向けた取り組み、さらには国際LCC就航に向けた国際航空路線の利用拡大等に向けた取り組みを行うコンソーシアムもしくは企業からの応募を開始した。道内に本社があることが条件。

新千歳空港は、23年7月にジンエア-がソウル線に就航し、昨年は国内LCC3社が成田、関空線に就航しており、今年4月には国内LCC3社の利用者数は100万人を突破している。

(WING DAILY)5/23

<http://www.jwing.com/w-daily/bn2013/0523.htm> (-> <http://www.jwing.com/w-daily/bn2013/0523.htm>)

(北海道プレスリリース)5/17

http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/kkk/lcc-juyou/20130517_koukokubun_lcc.pdf (-> http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/kkk/lcc-juyou/20130517_koukokubun_lcc.pdf)

全日空、4月旅客輸送実績、国際線10.7減、中国路線が依然低調

全日空は23日4月のグループ旅客輸送実績(速報値)を明らかにした。これによると、国際線旅客数は45万6,541人で同10.7%減少(座席供給は1.4%減)した。搭乗率は66.8%と前年比4.3ポイント下落している。不振が続く中国線の旅客数は21%減少した。

一方、北米線は座席供給が前年比16%増に対して旅客数6%増、利用率は72%だった。欧州線は供給1%増に対し旅客数5%増、利用率は70%で推移している。ともにビジネスクラスが好調。

また、国内線旅客数は274万4,847人となり、前年同月比0.9%減(座席供給は4.5%増)、搭乗率は54.4%と2.3ポイント低下した。3月から就航した羽田—石垣線の利用率は88%だった。

(日刊航空)5/24

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

ポーラ・カーゴ・ワールドワイド、アジア域内・太平洋路線を強化

米ポーラー・エア・カーゴ・ワールドワイドは、アジア域内路線と太平洋横断路線を6月上旬から強化する計画を発表した。ボーイング767-300型貨物機が東京、シドニー、仁川間。

767-300F型機が台北、名古屋、仁川間に就航し、米国発着便との接続もスムーズに行われる。

また、香港と米シンシナティを結ぶ太平洋横断路線は、需要の増大に応じて週2便増便する。

(時事ドットコム)5/23

http://www.jiji.com/jc/c?g=int_30&k=2013052300262 (-> http://www.jiji.com/jc/c?g=int_30&k=2013052300262)

フィリピン、ブラジルと航空協定締結、以遠権も認可

民間航空委員会(CAB)は22日、フィリピンとブラジルが初めて航空協定を締結したと明らかにした。23日付ビジネスワールドなどが伝えた。

この航空協定で、マニラとブラジル各地を結ぶ路線に週7便が割り当てられた。また、両国から第三国へ向かう以遠権でも同意。マニラ以外の地方空港とブラジルを結ぶ路線では無制限の運航枠が与えられたという。

フィリピンは先月、オーストラリアと新たな航空協定を結ぶことで合意。フィリピンの各地方とメルボルンを結ぶ旅客便の乗り入れ枠を拡大することが決まっている。

(NNA ASIA)5/24

<http://news.nna.jp/free/news/20130524php012A.html> (-> <http://news.nna.jp/free/news/20130524php012A.html>)

中国民航総局、ボーイング787、中国航会社へ正式承認

(ロイターによると)

中国民航総局(CAAC)は23日、米航空機大手ボーイングの787型機(ドリームライナー)について、国内航空会社による利用を正式に承認した。

中国民航総局はウェブサイト(www.caac.gov.cn)に声明を発表。ただ詳細については言及していない。

中国では、中国南方航空や海南航空などが787型機を導入する予定。

(ロイター)5/24

<http://jp.reuters.com/article/marketsNews/idJPL3N0E43I420130523> (->

<http://jp.reuters.com/article/marketsNews/idJPL3N0E43I420130523>)

エミレーツ・グループ、3月期決算、25年連続黒字、L/F80%

エミレーツ・グループは2013年3月期(2012年4月1日~2013年3月31日)決算で、31億AEDディルハム(約8億4500万米ドル)の純利益を計上した。25年連続の黒字。売上高は前年比17%増の775億AEDディルハム(約211億米ドル)となり、このうちEKの売上高は17%増の731億AEDディルハム(約199億米ドル)で、過去最高を記録した。

グループの主力であるエミレーツ航空は、拡大計画を継続し、単年度内では過去最高数の34機の新型航空機を受領し、世界6大陸におよぶネットワークを拡大し更に10都市へ新規就航した。輸送貨物量が初めて200万トンを超え、旅客数は過去最高の前年度比540万人増加した。

運航実績では、旅客数は16%増の3940万人で、座席利用率は前年と同水準の80%を達成した。収益を地域別で分析すると、最も高い売上は、東アジア・オセアニア地域が15%増の209億AEDディルハム(約57億米ドル)で、ヨーロッパ地域が18%増の201億AEDディルハム(約55億米ドル)となった。

(日刊航空)5/22

<http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-0523.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-0523.htm>)

(トラベルビジョン)5/14

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=57549> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=57549>)